

# 怪異小説の基本的形態

亀 吉 靖 枝

## 序

上田秋成の「雨月物語」の構成や描写に中国小説の影響をうけていることは日本文学史の教えるところで、今さら論ずるまでもないことだが、今、そうした典拠となった中国小説と「雨月物語」とを較べてみても、秋成がよくそれらを諷解しており、国文の知識ばかりでなく中国小説にも親しんでいた事がわかる。当時中国から多くのそういう諷詞小説が輸入され、当時の漢学者でその翻訳を試みた人も多くあった。「剪灯新話」等はかなり早くから日本に紹介されていたが、「今古奇観」や「三言二拍」等はこの頃から注目されたものである。秋成は当時の学者と同じくそのようなものに親しんだのであった。だが、彼はそれを直訳したり、その臭味をそのまま出したりしたのではなく、それをあく迄日本のものに化して純粋な日本文学として打ち出した所に、彼の優れた創造があったのである。ここに独特な「雨月物語」の美しさと、世界観が現われたのである。

しかし、日本化した日本文学として打ち出したとしても、数多い中国小説を典拠として書かれたものであるが故に「雨月物語」の怪奇の形態は中国の怪奇にどこか類似しているはずである。そういう類似点

を探すと共に、先ず怪異の基本的形態というものを中国怪奇小説を中心として、その特色を分類し明らかにした上で「雨月物語」の怪奇特色と比較して見たならば、その類似の点と特殊な点とが、いくらかでもつかめるのではないかと考えた。そこで、そういう分類を行なうためには、相当大がかりな材料と、こまかい分類項目とを必要とするのであるが、今は試みの第一歩として

- 1、怪異の正体
- 2、他へ及ぼした影響
- 3、その方法
- 4、最後の結果

の四段階に分類してカードに取る事にした。

## (一) 資料の取り方

次の作品の中から凡そ八十五篇を採りあげ、その中に活動する怪異の様相を右に挙げた四段階に分類して見た。

○「聊齋志異」——六五篇

○「剪灯新話」——十篇

- 「雨窓歌枕集」——五篇
- 「京本通俗小説」——三篇
- 「清平山堂話本」——二篇

〔Ⅱ〕 資料を処理した結果

次のように怪異の型を分類した。

〔A〕怪異の正体

- 1、鬼(幽霊) 26篇
- 2、狐 14篇
- 3、仙人(仙女) 8篇
- 4、人間 7篇
- 5、神(神仙) 6篇
- 6、閻魔王 5篇
- 7、蛇 3篇
- 8、夢 3篇
- 9、猿 2篇
- 10、怪物 2篇
- 11、その他 9篇

(内訳)

- 豚 ○蛙 ○虎 ○鹿 ○狸 ○花(白牡丹・つばき)
  - 蜂 ○鳩 ○竜
- 鬼(幽鬼)の場合が断然多い。

〔B〕怪異が他へ及ぼした影響

を分類すると

- a、善意を以て他へ働きかけた場合 58篇
- b、悪意を以て他へ働きかけた場合 24篇

C、その他

3篇

善意の場合が断然多い。

〔C〕怪異が他へ影響を及ぼした場合の方法

甲、善意の場合

- イ、結婚した 30篇
- ロ、心を改めさせた 11篇
- ハ、目的達成に助力 9篇
- ニ、災難を逃れさせた 7篇
- ホ、貧を助けた 6篇
- ヘ、欲情におぼれる 3篇
- ト、恋愛する 1篇
- チ、恩をかえした 1篇

乙、悪意の場合

- (Ⅰ) 殺した 8篇
- (Ⅱ) 財をうばう 3篇
- (Ⅲ) 女を奪う 2篇
- (Ⅳ) 仇うつ 1篇
- (Ⅴ) 狂人にした 1篇

丙、その他

2篇

(B・a)と(C・甲)との篇数が一致せぬのは、一篇の中で前半は善意、後に悪意となるというような複雑性があるためである。

(B・b)と(C・乙)の場合も同じである。

〔D〕怪異の最後の帰結

- (い) 消失する 31篇
- (ろ) 遠ざかる 15篇
- (は) 結婚した(一緒に住む) 10篇
- (に) 殺される 9篇
- (ほ) 生れ変わる 7篇
- (へ) 死ぬ 6篇
- (と) 正体を現わす 5篇
- (ち) 生きかえる 2篇

右のようになるが、今一つの事例によって

(III) 怪異の型について概観する

例えば「聊斎志異」巻一に見える「辛十四娘」の場合

[A] 「正体」は古寺に住んでいた狐であった。

[B] 馮は見知らぬ女と共棲したのだが、馮が、酒に酔って失敗ばかりし後悔していると、女は「あなたには災難が来る。私はそれを見ていられないから、これ切り別れます」と言い出した馮が泣いて謝ったので、女はこれから遊び仲間と手を切り、酒を飲まない、という事を約束させた。

しかしある日、公子に誘われて酒を飲み、酔っぱらって寝込んでしまった。それは公子の妻がヤキモチをやいて女中を殺してしまったので、殺人の罪を馮に着せよという公子の罠であった。

馮はそのため役所に送られてしまった。しかし女の力によって事件の内情が明白になり馮は助かった。

(他への影響)

[C] 狐は最初「辛十四娘」と名乗って馮に近付き、薛尚書の子介によって馮の妻となった。

[D] しまいには、女はこの世が嫌になり「これでお別れします」といったかと思うと、それからは、めっきり器量が悪え、とうとう死んでしまった。後下男が大筆へ行つた時、仙人になつてゐる十四娘に会つた。

(最後の帰結)

右のように四つの段階になる。

(IV) 右の類型を次のような表にする。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
[A] 怪異の正体	鬼	狐	仙人(女)	人間	神	閻魔王	蛇	夢	猿	怪物	その他
[B] 他へ及ぼした影響		a 善意をもつて				b 悪意をもつて			c その他		
[C] その方法	(甲) 善意の場(合)	結婚した	心を改めさしたるに	目的達成に助力した	災難を逃した	貧を助けた	欲性におほれる	恋愛する	恩をかえした	(乙) 悪意の場(合)	財を奪う
[D] 最後の帰結	い	ろ	は	に	は	へ	と	ち			
	消失する	遠ざかる	結婚した	殺される	生れ変わる	死ぬ	正体を現わす	生き返る			

右の表によって「辛十四娘」の場合を覗くと、次のようになる。

D (5)	C (4)	B (a)	A (2)	
		善意	狐	正体
				影響
				方法
				帰結
		結婚して助力		
				離れ去る

(V)

今、自分の考えた型から「雨月物語」を覗くと、次のようになる。

「白峯」 (怨霊型)

D (1)	C (1)	B (b)	A (1)	
		悪意	鬼 <small>おに</small>	正体
				影響
		仇うつ		方法
				帰結
				消失する

「菊花の約」 (武士道型)

D (1)	C	B	A	
鬼 <small>おに</small>				正体
				影響
				方法
				帰結

D (1)	C (3)	B (a)	
			善意
			その他
			消失する

「浅茅が宿」 (真女型)

D (1)	C (3)	B (a)	A (1)	
			鬼 <small>おに</small>	正体
				影響
		善意		方法
		その他		帰結
				消失する

「夢応の鯉魚」 (変身型)

D (5)	C (2)	B (a)	A (1)	
			魚	正体
		善意		影響
				方法
		災難を逃れた		帰結
				生き返る

「仏法僧」——(修羅型)

	A (1)	B (c)	C (四)	D (イ)
正体	鬼 <small>おに</small>			
影響		悪意		
方法		その他		
帰結			消失する	

「吉備津の釜」——(嫉妬型)

	A (1)	B (b)	C (V)	D (イ)
正体	鬼 <small>おに</small>			
影響		悪意		
方法		仇をうつ		
帰結			消失する	

「蛇性の姪」——(妖女型)

	A (7)	B (a)
正体	蛇	
影響		善意
方法		
帰結		

「青頭巾」——(往生型)

	C (イ)	D (ロ)
	結婚した	
		殺される

「貧福論」——(助言型)

	A (1)	B (b)	C (四)	D (イ)
正体	鬼			
影響		悪意		
方法		おどす		
帰結				死ぬ

	A (1)	B (a)	C (イ)	D (イ)
正体	蟻 <small>あま</small> (黄金の)			
影響		善意		
方法		目的達成に 助力		
帰結				消失する

(VII) これらの型の中で共通するのを資料の中からピックアップアツプして見ると、次のようになる。

○白峯

○吉備津の釜

この二つは「同型」である。

〔A〕正体——亡 釜 (1) 〔B〕影響——悪意 (b)

〔C〕方法——仇を打つ (W) 〔D〕帰結——消失する (i)

これと「同型」のは「聊斎志異・卷一」の「姚安」これと「似通った型」は「京本通俗小説」の「失われた寶石」

ただし〔C〕方法——結婚した (f) となっている。

○菊花の約

○浅茅が宿

これも「同型」である。

〔A〕正体——亡 釜 (1) 〔B〕影響——善意 (a)

〔C〕方法——その他 (f) 〔D〕帰結——消失する (i)

これは「同型」はなくて「似通った型」のは

「剪灯新話」の「翠々伝」

「剪灯新話」の「藤移酔ひて聚景園に遊ぶ記」

〔C〕方法——結婚した (f)

「聊斎志異・卷六」の「季八皿」

〔C〕方法——貧を助けた (f)

と相違している。

○夢窓の鯉魚

〔A〕正体——魚 (1) 〔B〕影響——善意 (a)

〔C〕方法——災難を逃した (f) 〔D〕帰結——生き返

る (ch)

「同型」はなくて「似通った型」で「聊斎志異・卷二」の「二班」、ただし。

〔C〕方法——正体を現わす (と)

と相違している。

○仏法僧

この「同型」では

「聊斎志異・卷二」の「鬼令」。

「聊斎志異・卷六」の「死僧」で

〔A〕正体——亡 釜 (1) 〔B〕影響——その他 (c)

〔C〕方法——その他 (丙) 〔D〕帰結——消失する (i)

る (i) となっている。

○蛇性の姪

これは〔A〕正体——蛇 (f) 〔B〕影響——善意 (a)

〔C〕方法——結婚した (f) 〔D〕帰結——殺される (c)

となり

中国小説に、全くの「同型」はなく「似通った型」は

「雨窓歌枕集」の「季元が呉江にて朱蛇を救けし事」

〔D〕帰結——消失する (i)

と相違している。ただし「蛇性の姪」の全体の構想が「白蛇伝」に依っていることは有名である。

○青頭巾

〔A〕正体——亡 釜 (1) 〔B〕影響——悪意 (b)

〔C〕方法——おどす〔丙〕〔D〕帰結——死ぬ

となり「同型」はなくて「似通った型」では

「聊齋志異・卷二」の「草阿端」

「聊齋志異・卷二」の「董公子」

「剪灯新話」の「牡丹灯記」

「京本通俗小説」の「幽霊妻」

〔C〕方法——殺した(一) 〔D〕帰結——消失した(い)

と相違している。また

「聊齋志異・卷六」の「夢狼」

「剪灯新話」の「修文舎人伝」

〔C〕方法——殺した(一) 〔D〕帰結——遠さかる(い)

「京本通俗小説」の「失われた宝石」

〔C〕方法——結婚した(い) 〔D〕帰結——消失する(い)

「京本通俗小説」の「西山奇縁」

〔C〕方法——結婚した(い) 〔D〕帰結——殺される(い)

「聊齋志異・卷二」の「姚安」

〔C〕方法——仇をうつ(Ⅳ) 〔D〕帰結——消失する(い)

とそれぞれ相違している。

○貧 福 論

〔A〕正体——心 靈(一) 〔B〕影響——善意(Ⅱ)

〔C〕方法——目的達成に助力(い) 〔D〕帰結——消失する(い)

この「同型」は

「聊齋志異・卷六」の「珠兒」

「聊齋志異・卷六」の「葉生」

「雨窓歌枕集」の「桃下が寝園にて諸葛を弔ひし事」

となっている。

右のように〔A〕正体と〔B〕影響の二つに基準を置いて、〔C〕方法と〔D〕帰結の「同型」のもと「似通った型」とにわけて、共通するものとしてピックアップした。

〔Ⅵ〕次に「雨月物語」九話の内でも最も重要なものは、他へ及ぼした「方法」の類型であるから、

これを少し詳しく見ると

〔方法〕

雨月物語	資 料
○蛇性の姪 (結婚した)	○聊齋志異—蓮花公主、香玉、羅刹海市、花姑子、西湖主、杜小雷、伍秋月、青娥、辛十四娘、媚娘、封三娘、梅女、青蛙神、狐夢、土偶、藤娘、魯公女、劉海名、房文淑、武孝廉、胡氏、醜狐
	○雨窓歌枕集—董永が仙女に遇う事、李元が呉江にて朱蛇を救けし事
	○清平山堂話本—洛陽三怪記
	○京本通俗小説—西山奇縁、失われた宝石

○貧 福 論 (目的達成に助力)	○剪灯新話—綠良人伝、翠々伝、朦朧酔いて聚景園に遊ぶ記
○夢底の鯉魚 (災難を逃れた)	○聊斎志異—鶴異、鰲仙、復娘、葉生—珠兒、蘇仙、彭海秋、三仙 ○雨窓歌枕集—桃下が菱園にて諸葛を來ひし事
○菊花の約	○聊斎志異—鬼令
○浅茅が宿 ○仏 <small>(法 憎)</small> <small>(その他)</small>	○死 憎
○白 峯 ○吉備津の釜 (仇うつ)	○聊斎志異—姚安
○青 頭巾 (おどす)	ナ シ

(VIII) 結 び

以上の作業によって、次のような点が明らかになる。

(A) 怪異の正体として

○中国小説—では「鬼」と「狐」が断然多い。

○雨月物語—では九話のうち六話が「鬼」であるが、「狐」の場合は一つも無い。

(B) 怪異が他へ及ぼした影響は、途中の変化は抜きにして、大体

からいうと。

○中国小説—では善意を以てする方が、その反対のもののも倍も多い。

○雨月物語—では善意の分と悪意の分と同数に近い。

(C) 怪異が他へ及ぼした方法を比較すると

○結婚した型

○中国小説—では 三〇篇

この型に雨月物語—では「蛇性の姪」がこれに当る。

○目的達成に助力した型

○中国小説—では 九篇

この型は雨月物語—では「貧福論」がこれに当る。

○災難を逃れた型

○中国小説—では 七篇

この型は、雨月物語—では「夢底の鯉魚」がこれに当る。

○仇をうつ型

○中国小説—では一篇だけであるが、雨月物語—では「白峯」と



「吉備津の釜」がこれに当る。

このようにして、比較して見た時、特に感ぜられる事は

- 1、中国小説では「鬼」と「狐」、ことに狐の小説が夥しいこと。
- 2、怪物が仇をかえずというのは、雨月物語の中の特色となつていて、中国小説には割合に少ないこと。(尤もここに取り上げた資料だけがらの帰結であるが)
- 3、怪物との純婚、即ち異類婚の話が中国小説に断然多いこと。

4、中国小説と雨月物語とを比較して見ると、中国小説の世界が非常に善意にみち、明るいことが特に感ぜられ、その反対に、雨月物語の世界が暗く、息づまる感じがすること。

5、雨月物語の中の「吉備津の釜」は部分的には中国小説の構想を借りた点が多いが、全体として日本独自の陰惨な感じに彩られていること。

6、前項のような感じは「仏法僧」にも「白峯」にも感ぜられること。

等が、漠然たる読後感からでなしに、結論し得られる所であり、雨月物語の特色を論ずるにあたっての、基礎的な作業でもあると考へる。

## (IX) 資料

「清平山堂話本」宋代の話本であつて、洪棟により刊行せられた。

入矢義高氏訳「洛陽三怪記」による。

「京本通俗小説」宋代の話本である。

村松暎氏訳「杭州綺譚」による。

「雨窓歌枕集」宋代の話本である。

入矢義高氏訳「雨窓歌枕集」による。

「剪灯新話」明代の初の作品で、瞿佑作である。四卷二十篇より成り、短篇の志怪小説である。

「聊齋志異」明の末から清代初の作品で、蒲松齡作である、後百年間も流行した。全部で十六卷ある。